

報道関係者各位
プレスリリース

米国モーニングスター、投信保有者の立場から 16 カ国の投信市場を評価 日本は B 評価=まずまずの優等生

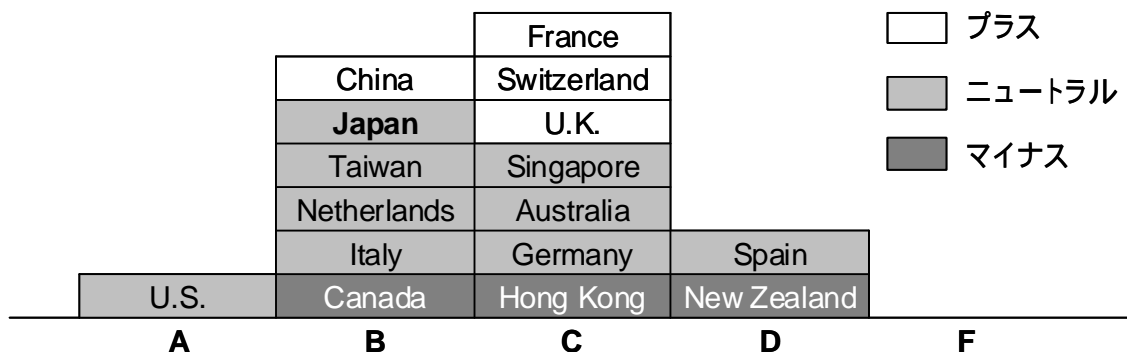
イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長：山口勝業)は、同社の実質親会社にあたる米国モーニングスター社(在シカゴ)が、世界 16 カ国の投信市場について、投資家の利益の観点から評価を行った結果を発表した。

これは、米国モーニングスター社が、「投資家保護」、「目論見書や報告書での情報開示」、「販売行為とメディア報道」、「販売手数料と運用報酬」、「税制」、「販売方法と商品の多様性」の6つの観点から欧米とアジア太平洋地域の16カ国の投信市場を評価し、国ごとにAからDの格付けを行ったものである。なお、日本市場における情報収集、評価においては、イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社が協力して行った。

イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社代表取締役社長の山口勝業は、「投信市場についてのグローバルな比較評価は珍しく、グローバルに投信市場を見ている米国モーニングスターだから出来ることである。このレポートが日本の投資信託マーケットの発展に資すれば幸いであるし、当社もそのサポートをしたい」とコメントしている。

< 評価の概要 >

総合評価では、日本は米国と中国に次いで 16 カ国中第 3 位となり、投資信託の投資家にとっての環境では「B = まずまずの優等生」とであると評価された。



16 カ国の中で、唯一 A を獲得したのは米国であった。米国投信業界は統一形式で手数料を開示していること、事後の総コストを開示していること、手数料が相対的に低いことなどが評価された。

各国とも更に取組むべき課題が指摘され、すべての項目でA評価を受けた国は無かった。

日本の投信市場への評価は、「目論見書や報告書での情報開示」(目論見書や運用報告書の情報が十分で投資家の役に立っているか)や、「税制」(投信税制が長期投資や退職に備えた運用を促進するものか)については相対的に低い評価であったもの、「投資家保護」、「販売行為やメディア報道」(運用会社や販売会社の利害が投資家と一致しているか、投信についてのメディア報道が投資家の役に立っているか)といった点は高く評価された。

< 調査対象国 >

北米地域.....米国、カナダ

欧州地域.....英国、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、スイス、イタリア

アジア太平洋地域.....日本、中国、香港、シンガポール、台湾、オーストラリア、ニュージーランド

< 調査項目と日本の評価 >

投資家保護.....日本の評価 = B +

目論見書や運用報告書での情報開示.....日本の評価 = C +

販売行為とメディア報道.....日本の評価 = A

販売手数料と運用報酬.....日本の評価 = B -

税制.....日本の評価 = C

販売方法と商品の多様性.....日本の評価 = A

以上

本件についてのお問い合わせ：島田 Tel. 03-3239-7701

米国モーニングスター社

投資に関する独立系調査会社におけるリーディング・カンパニーであり、欧米とアジアを中心に世界各国でビジネスを展開している。同社は世界各国の投資信託、株式、またリアルタイム・データなど30万系列近くを保有し、これらのデータを個人、ファイナンシャル・アドバイザー、販売会社、機関投資家などにソフトウェアや印刷媒体で提供している。

<http://corporate.morningstar.com/>

イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社

米国イボットソン・アソシエイツ社が2000年に設立した子会社であり、アセット・アロケーションに関連するコンサルティング等を日本の運用機関、投資商品の販売会社に対して行っている。

2006年3月に米国イボットソン社が米国モーニングスター社に買収されたことにより、現在ではアセット・アロケーションに関するサービスだけでなく、米国モーニングスター社が展開しているサービスを日本で提供している。

<http://www.ibbotson.co.jp/>